

東北なる櫻野村なりと云、其は次にいふべし、

鹽屋郡 山上 片岡 阿會 散伎^{サヌキ} 山下 餘戸

鹽屋はシホノヤなるを、今の俗はノを省きてシホヤと呼ぶなり、文字も近世は鹽谷に作る、委しくは下の名所部の鹽屋里の條にいふべし、さて山上廢す、片岡は今高原山の東南にあり、阿會廢す、散伎は佐貫に作りて、舟生驛の東南にあり、山下餘戸はともに廢す、

那須郡 那須 大筈^{オホケ} 熊田 方田 山田 大野 茂武^{モリタケ} 三和^{ミワ} 全倉 大井 石上^{イシノカミ} 黒川

那須郡は往古は一國なり、國造本紀に、那須國造纏向日代朝御代、建沼河命孫大臣命定賜國造とあり、然るを孝德天皇の御代に、坂東の小國を郡に改むるよしみえたれば、其時郡とは成しなるべし、また同書に、神野國造瑞籙朝御世、神八井耳命孫建五百建命定賜國造とある、神野國は那須郡に屬して、今の狩野郷と云所なり、白川の廣瀬以寧は云り、さもあらむか、さて那須郷と唱へし所は、いづこにか今知がたし、但し那須國造韋提と云人の碑は、今黒羽城の南の方にて、湯津上村にあり、其邊ならむか、大筈は大桶に作りて、烏山城の北の方にあり、熊田も同所にあり、方田も堅田に作りて存す、山田も存す、黒羽城の東南にて、中川の東岸なり、大野は武茂庄に、今大野地と云所あり、是なるべし、茂武は武茂の轉倒にて、タケブなり、今は武部に作る、神名帳に載せたる建武^{タケノ}山神社も、當所にあり、續日本後紀には、下野國武茂神、坐採沙金之山とあり、今も其邊に金洗澤と云所あり、然るを近世宇都宮の一族武茂常陸介と云人、當所に居住して、字音のまゝにムモと唱へしを、今の俗は訛りてモ、の庄と唱ふるなり、されど武部村をば、舊の如くタケブと呼ぶなり、三和は三輪に作りて存す、三和神社も當所にありて、神名帳三代實錄等に載たり、全倉廢す、但し矢ノ倉と云村あり、もし全は矢の誤にてはあらざるか、よく考ふべし、大井また大湯か、大湯村は葦野驛の西にあり、石上は今上下二村に分れて、太田原驛の西の方にあり、兵部式には磐上驛と